



錦江町が、私のふるさとになる。

多様な文化が輝くまちへ

現在、錦江町には約100名の外国人が住んでいます。その中の70名近くが「技能実習制度」や「特定技能制度」を利用して来日している外国人（以下、外国人実習生）です。

ことばや文化がちがっても、同じ地域で生活する一員として、助け合いながら安心して過ごせる環境とはどうあるべきか。本特集では、多文化共生の取り組みや現場の声を紹介し、誰もが暮らしやすい地域のこれからを一緒に考えます。

技能実習制度から育成就労制度へ

技能実習制度は、開発途上国の人材が日本で働きながら、技術や知識を学び、自国の発展に役立ててもらふことを目的とした制度です。1993年に始まり、農業、建設、介護など幅広い分野で実施されています。実習生は企業などに所属し、最長5年間、日本人と同じ職場で実践的に技能を習得します。

しかし、実際には人手不足を補う労働力としての側面が強まり、転籍ができない、長時間労働や人権侵害などの問題も指摘されてきました。

こうした課題を踏まえ、政府は技能実習制度に代わる「育成就労制度」を創設。2027年から施行される予定です。

育成就労制度の特徴

これまでの実習制度が「技術を母国に持ち帰ってもらう国際貢献」が目的だったのに対し、新制度は「働きながら日本で技術を育て、長く働いてもらう」ことを重視しています。

大きな違いは「転籍のしやすさ」です。これまで外国人実習生は原則として同じ企業でしか働けませんでした。新制度では一定の条件のもとで他の企業への転籍が可能になります。また、日本語教育や生活支援を強化し、「地域での共生」をより重視する仕組みになります。

多文化共生社会の実現に向けて

外国人実習生は、錦江町でも年々増え、私たちの暮らしを支える存在になっています。外国人と地域がともに支え合う多文化共生社会の実現に向け、あなたには、どんなことができますか。もし、道に迷っている外国人を見かけたら、声をかけられるでしょうか。文化や習慣のちがいに戸惑っている人に、あなたなら何ができるでしょう。

ことばや文化のちがいを越えて「一緒に暮らす仲間」としてどう向き合えるか。その第一歩を、私たち自身がどのように踏み出すかが、今、問われています。

錦江町の国際交流員

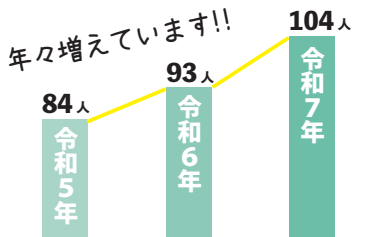


ベトナム出身 アインさん
ミャンマー出身 ミイツさん

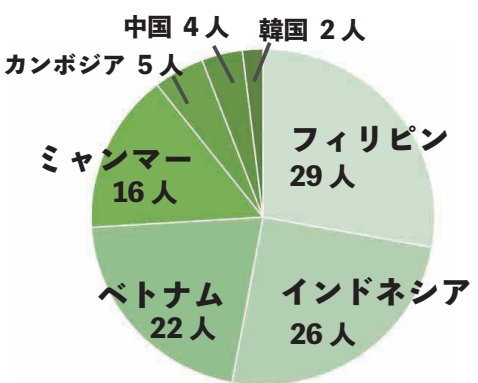
※国際交流員は、外国人と町民の交流や日本語教室、文化体験イベントを企画・運営し、多文化共生を推進する専門職。

104人

(令和7年11月1日現在)



どの国籍の外国人が多いの？（永住者含む）



69人

(令和7年11月1日現在)

【内訳】	インドネシア	23人
	ベトナム	17人
	ミャンマー	15人
	フィリピン	9人
	カンボジア	5人

「技能実習制度」や「特定技能制度」で錦江町に来ている外国人実習生はどれくらいいるの？

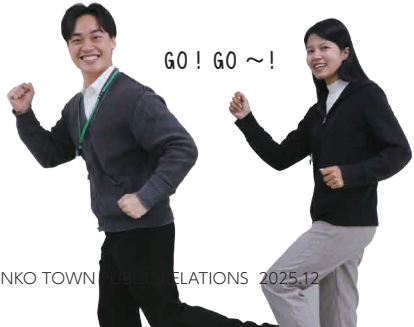
外国人実習生たちはどんな仕事をしているの？

農業
介護・医療
建設業
など



錦江町では外国人実習生のためにどんな取組をしているの？

次のページで詳しく紹介します！





⑥看板は未来づくり専門員 OB の小阪廉さん作⑦練習を重ね上達⑧初体験の抹茶⑨歌やダンスで盛り上がる交流会⑩困りごとワークショップのひとつ⑪最後は円になって踊るおはら節

①水かけ祭りをイメージした遊び②ゴミの分別方法を学習③お揃いの法被で練り踊る④落司妙子先生によるおはら節の指導⑤お気に入りの着物でハイチーズ

錦江町では、外国人実習生たちを対象としたイベントや交流プログラムなどを定期的に開催しています。遠い祖国を離れ、錦江町で頑張る外国人実習生たちの暮らしが、少しでも充実したものになればという想いから始まったものです。

27名の外国人実習生がおはら祭へ

今回の「おはら祭への参加」もその一つ。町内の外国人実習生たちへ参加を呼びかけ、8月から練習を開始しました。講師は、落司妙子先生。おはら祭で踊る「おはら節」「鹿児島ハンヤ節」「渋谷音頭」の3曲を丁寧な教わり、外国人実習生たちは隊列を組み、踊りながら振りを覚えていきました。

「まずは自分たちが楽しんで踊って。そうすると観ている人たちも元気になる。笑顔と元気が大事よ」と、落司先生が声をかけると、外国人実習生たちから笑みがこぼれます。温かい雰囲気の中、練習が行われました。

5回の練習を経て、いざ本番。今回は27名の外国人実習生が参加し、関係者を含め、総勢40名の踊り連となった「KINKO OHANA」。鹿児島市役所前から朝日通までを、約1時間かけて練り踊りました。秋晴れのもと、1万人を超える踊

り手の方々とともに、祭りの雰囲気存分に味わった外国人実習生たち。晴れ晴れとした表情で、最後まで踊りを楽しんでいました。

多文化が つなぐ町の輪

国際交流員のアインさんとミッツさんが中心となり日本語教室やイベントなどを企画し、外国人実習生同士や町民との交流を図っています。

今年4月27日に行われた「多文化共生交流会」では、外国人実習生と町民約70名が参加し、ミャンマーやカンボジアのお正月に開催される水かけ祭りをイメージした遊びや、各国の歌やダンスが披露されました。

また、京町サロンの皆さんとは、着付や茶道体験を通して交流。参加した外国人実習生は、初めての着物に目を輝かせていました。

日本語教室は、定期的に開催しています。「困りごとワークショップ」や「ゴミの分別」「防災」など、外国人実習生が生活する上で役立つテーマが毎回設定されています。

誰もが暮らしやすい町を目指して、私たち一人一人にできることは何か。あなたの小さな一歩が、誰かの大きな支えになるかもしれません。

Lesson

町内で外国人を見かけるけれど、「話しかけてもいいかしら?」「日本語は通じるの?」と、ちょっと戸惑っている方はいませんか?外国人とコミュニケーションをとるときのポイントを紹介します!

① 短い言葉で、ゆっくり話す

一文は短く。
簡単な単語は伝わりやすいです。

② 困ったときはジェスチャーで

「OK」や「ダメ」のジェスチャーは世界共通!



③ 曖昧な言葉は使わない

「うん」や「大丈夫」などの曖昧な表現は避けましょう。
鹿児島弁も伝わりにくいかも。「うんにゃ」「やっせん」はムズカシイ。

④ 「です」「ます」を使うと伝わりやすい

(例) 相手に書いてほしいとき
→書きます、お願いします。
「〇〇ます、お願いします」のフレーズは、易しい日本語。
※熟語になっている言葉も伝わりにくいので要注意!
(例) 確認→チェック 避難→逃げる 記入→書く



Interview

2021年6月から錦江町で農業の仕事をしています。ベトナムに18歳と13歳の子どもがいるので、子どもたちのために日本で働いています。

おはら祭に参加して、普段はなかなか会えない他の事業所の実習生と会うことができ、楽しい時間を過ごせました。農業の仕事は大変ですが、錦江町の人は親切で、海もきれいで、とても暮らしやすいです。

近所のおじいちゃんやおばあちゃんが挨拶してくれるのがとても嬉しいです!

ベトナム出身
ダオ・ティ・ホアンさん (39歳)



私は、2023年8月に来日し、現在、錦江町で介護の仕事をしています。ミャンマーは情勢が不安定で、働くところがありません。家族を支えるために、日本で働いています。

離れて暮らす家族が心配ですが、職場にミャンマー出身の実習生がたくさんいるので心強いです。また、利用者さんの「ありがとう」のひとことがとても嬉しく、やりがいを感じています。しばらくは日本で頑張って働きたいです。日本語の勉強も頑張ります!

ミャンマー出身
タン・エー・カインさん (26歳)

